

得手体位をとる頭頸部疾患患者の褥瘡予防

—得手体位における関連因子の検討—

西病棟 10 階 ○山田 祥子 染澤 直美 井上 久美子  
津田 恭子 北橋 由香 前田 順子

キーワード：得手体位 ターミナル 褥瘡予防  
頭頸部疾患

I. はじめに

ターミナルの頭頸部疾患患者は得手体位をとる傾向が多くみられる。私達のこれまでの研究から、最低限の日常生活は自立しており、日中はベッドから離れていることが多く除圧が図れている、と考えられていても、臥床時に得手体位をとることが頭頸部疾患患者の褥瘡発生要因の1つとして挙げられた。そこで、前回の研究では得手体位をとる理由を調査したが、「痛いから」「息が苦しいから」という訴えしか聞かれなかった。しかし、上記のような訴えを持つ患者でも得手体位をとらない患者がみられ、得手体位をとるのは他にも原因があるのではないかと考えた。そこで、得手体位の原因を把握し、その原因を早期に取り除くことができれば褥瘡予防につながると考え、今回は、得手体位をとる患者の関連因子を明らかにするために、得手体位をとる患者と、とらない患者を比較検討した。

II. 目的

ターミナルの頭頸部疾患患者の得手体位をとる関連因子を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：関係探索研究
2. 対象：H.14.4～H.16.9 に西病棟 10 階に入院していたターミナルの頭頸部疾患患者 25 名
3. 研究期間：H.16.7～10
4. 場所：西病棟 10 階
5. データ収集方法：看護記録・カルテからターミナルの頭頸部疾患患者で得手体位をとる患者ととらない患者を調べ、得手体位の関連因子と考えられる項目を挙げた。項目は、前回の研究で

得手体位をとる理由として聞かれた痛み・呼吸苦と、この2つに影響するものとし、①性別②年齢③自覚的な痛みの訴えの有無④麻薬使用の有無⑤自覚的な呼吸苦の訴えの有無⑥気管切開の有無(永久気管口を含む)⑦疾患⑧転移の有無⑨転移部位⑩褥瘡の有無とした。③、④、⑤、⑥、⑩は $\chi^2$ 検定を行い、関連を調べた。

6. 倫理的配慮：収集したデータを記載する際には個人が特定されないように配慮した。

IV. 結果

H.14.4 から H.16.9 までに西病棟 10 階に入院したターミナルの頭頸部疾患患者は 25 名であった。うち得手体位をとる患者は 15 名、とらない患者は 10 名であった。

①性別：対象患者 25 名のうち、男性は 16 名、女性は 9 名であった。16 名の男性のうち、得手体位をとる患者は 11 名であり、9 名の女性のうち、得手体位をとる患者は 4 名であった。

②年齢：25 歳～79 歳で、平均年齢  $59.3 \pm 13.8$  歳であった。

③自覚的な痛みの訴えの有無：自覚的な痛みの訴えのあった患者で、得手体位をとる患者は 15 名、とらない患者では 5 名であった。痛みの訴えのなかった患者で、得手体位をとる患者はみられず、とらない患者では 5 名であった。(表 1)

表 1 痛みの有無と得手体位の有無 n=25

|       | 痛み有    | 痛み無  | 計  |
|-------|--------|------|----|
| 得手体位有 | 15(12) | 0(3) | 15 |
| 得手体位無 | 5(8)   | 5(2) | 10 |
| 計     | 20     | 5    | 25 |

単位：人 ( ) 内は期待度数

この結果から、 $\chi^2$ 検定にて関連をみる。

<判定>: 自由度 1 で 1%有意水準は 6.64、5%有意水準は 3.84 であり、 $\chi^2$  は 9.37 となる。 $\chi^2 > 1\%$  有意水準、 $\chi^2 > 5\%$  有意水準となり、自覚的な痛みがあることと得手体位があることの間に関連があった。

④麻薬使用の有無: 対象患者 25 名のうち、麻薬を使用していた患者は 20 名であった。麻薬使用の有無は、痛みに影響している項目であり、痛みと関連させ検定する。麻薬使用後も痛みの訴えがあった患者で、得手体位をとる患者は 13 名、とらない患者は 3 名であった。麻薬使用後痛みの訴えがなかった患者で、得手体位をとる患者はみられず、とらない患者は 4 名であった。(表 2)

表 2 麻薬使用後の疼痛有無と得手体位の有無 n=20

|       | 麻薬使用後<br>疼痛有 | 麻薬使用後<br>疼痛無 | 計  |
|-------|--------------|--------------|----|
| 得手体位有 | 13(10.4)     | 0(2.6)       | 13 |
| 得手体位無 | 3(5.6)       | 4(1.4)       | 7  |
| 計     | 16           | 4            | 20 |

単位: 人 ( ) 内は期待度数

この結果から  $\chi^2$  検定にて関連をみる。

<判定> 自由度 1 で 1%有意水準は 6.64、5%有意水準は 3.84 であり、 $\chi^2$  は 9.286 となる。 $\chi^2 > 1\%$  有意水準、 $\chi^2 > 5\%$  有意水準となり、麻薬使用後も痛みの訴えがあることと得手体位をとることの間に関連があった。

⑤自覚的な呼吸苦の有無: 自覚的な呼吸苦の訴えがあった患者で、得手体位をとる患者は 11 名、とらない患者は 8 名であった。自覚的な呼吸苦の訴えがなかった患者で、得手体位をとる患者は 4 名、とらない患者は 2 名であった。(表 3)

表 3 呼吸苦の有無と得手体位の有無 n=25

|        | 呼吸苦有り    | 呼吸苦無し  | 計  |
|--------|----------|--------|----|
| 得手体位有り | 11(11.4) | 4(3.6) | 15 |
| 得手体位無し | 8(7.6)   | 2(2.4) | 10 |
| 計      | 19       | 6      | 25 |

単位: 人 ( ) 内は期待度数

この結果から  $\chi^2$  検定にて関連をみる。

<判定> 自由度 1 で 1%有意水準は 6.64、5%有意水準は 3.84 であり、 $\chi^2$  は 0.146 となる。 $\chi^2 > 1\%$  有意水準、 $\chi^2 > 5\%$  有意水準は棄却され、自覚的な呼

吸苦があることと得手体位をとることの間に関連はなかった。

⑥気管切開の有無: 気管切開(永久気管口を含む)がある患者で、得手体位をとる患者は 9 名、とらない患者は 5 名であった。気管切開がない患者で、得手体位をとる患者は 6 名、とらない患者は 5 名であった。(表 4)

表 4 気管切開の有無と得手体位の有無 n=25

|       | 気管切開<br>有 | 気管切開<br>無 | 計  |
|-------|-----------|-----------|----|
| 得手体位有 | 9(8.4)    | 6(6.6)    | 15 |
| 得手体位無 | 5(5.6)    | 5(4.4)    | 10 |
| 計     | 14        | 11        | 25 |

単位: 人 ( ) 内は期待度数

この結果から  $\chi^2$  検定にて関連をみる。

<判定> 自由度 1 で 1%有意水準は 6.64、5%有意水準は 3.84 であり、 $\chi^2$  は 0.244 となる。 $\chi^2 > 1\%$  有意水準、 $\chi^2 > 5\%$  有意水準は棄却され、気管切開があることと得手体位をとることの間に関連はなかった。

⑦疾患: 対象患者 25 名のうち、上咽頭腫瘍 4 名、下咽頭腫瘍 7 名、喉頭腫瘍 3 名、鼻腔腫瘍 3 名、上顎腫瘍 2 名、口腔底腫瘍 1 名、舌腫瘍 1 名、外耳道腫瘍 1 名、中耳腫瘍 1 名、顎下腫瘍 1 名、原発不明腫瘍 1 名であった。そのうち、得手体位をとる患者は上咽頭腫瘍 4 名、下咽頭腫瘍 4 名、喉頭腫瘍 2 名、鼻腔腫瘍 2 名、上顎腫瘍 2 名あった。(表 5)

表 5 疾患と得手体位の有無 n=25

|       | 得手体位有 | 得手体位無 | 計  |
|-------|-------|-------|----|
| 上咽頭腫瘍 | 4     | 0     | 4  |
| 下咽頭腫瘍 | 4     | 3     | 7  |
| 喉頭腫瘍  | 2     | 1     | 3  |
| 鼻腔腫瘍  | 2     | 1     | 3  |
| 上顎腫瘍  | 2     | 0     | 2  |
| 口腔底腫瘍 | 1     | 0     | 1  |
| 舌腫瘍   | 0     | 1     | 1  |
| 外耳道腫瘍 | 0     | 1     | 1  |
| 中耳腫瘍  | 0     | 1     | 1  |
| 顎下腺腫瘍 | 0     | 1     | 1  |
| 原発不明  | 0     | 1     | 1  |
| 計     | 15    | 10    | 25 |

単位: 人

⑧転移の有無：対象患者 25 名はターミナルの患者であり、その全員に転移がみられた。

⑨転移部位：対象患者 25 名の転移の有無を調べ、その部位を調べたが、ターミナルであり詳しい検査をしておらず、正確なデータの収集ができなかった。

⑩褥瘡の有無：得手体位をとり、褥瘡がある患者は 11 名、ない患者は 4 名であった。得手体位をとらない患者で褥瘡がある患者は 2 名、ない患者は 8 名であった。(表 6)

表 6 得手体位の有無と褥瘡の有無 n=25

|     | 得手体位<br>有 | 得手体位<br>無 | 計  |
|-----|-----------|-----------|----|
| 褥瘡有 | 11(7.8)   | 2(5.2)    | 13 |
| 褥瘡無 | 4(7.2)    | 8(4.8)    | 12 |
| 計   | 15        | 10        | 25 |

単位：人 ( ) 内は期待度数

この結果から  $\chi^2$  検定にて関連をみる。

<判定>自由度 1 で 1% 有意水準は 6.64、5% 有意水準は 3.84 であり、 $\chi^2$  は 6.838 となる。 $\chi^2 > 1\%$  有意水準、 $\chi^2 > 5\%$  有意水準となり、得手体位があることと褥瘡があることの間には関連があった。

## V. 考察

以上の結果から得手体位と関連がなかった項目、

⑤自覚的な呼吸苦の訴えの有無⑥気管切開の有無(永久気管口を含む)について述べる。⑤自覚的な呼吸苦の訴えの有無に関しては、前年度の研究で得手体位をとる理由として「息が苦しいから」という訴えが聞かれており、要因の 1 つではないかと考えていた。しかし、今回の研究で関連はなかった。また⑥気管切開の有無に関しても、呼吸苦の有無に影響していることもあり、得手体位と関連があるのではないかと考えていたが関連はなかった。このことから、得手体位を早期に発見していくためには自覚的な呼吸苦以外の要因に着目していく必要があると考えられる。

次に得手体位と関連があった項目、③自覚的な痛みの訴えの有無④麻薬使用の有無について述べる。③自覚的な痛みの訴えの有無に関しては、前年度の研究で得手体位をとる理由として「痛いから」という訴えが聞かれており、要因の 1 つはないかと考え

ていた。今回の研究でも、麻薬使用後も自覚的な痛みがあることと得手体位をとることに関連があった。このことから、疼痛コントロールが不良であると得手体位をとりやすいと言える。患者の日常生活場面に最も接しているのは看護師であり、患者の状態を自覚的・客観的情報とあわせて的確に主治医・麻酔科医に伝え、よりよい疼痛コントロールを行っていく必要があると考えられる。

最後に  $\chi^2$  検定を行わなかった項目①性別⑦疾患⑧転移有無⑨転移部位について述べる。①性別に関しては、16 名の男性のうち 11 名が得手体位をとり、半数以上が得手体位をとっていた。しかし、「男性」という分け方だけでは、その人の性格などが考慮されず、性別だけでは得手体位との間に関連があるとは言いきれないと考えられる。⑦疾患に関しては、対象患者は少ないが上咽頭腫瘍・上顎腫瘍の患者は全員得手体位をとっていた。このことから、上咽頭腫瘍・上顎腫瘍の患者は得手体位をとりやすいと考え観察をしていく必要がある。⑧、⑨の転移の有無、転移部位に関しては、転移は対象がターミナル患者であるため、全員の患者にみられていた。その部位に関しては、頸部リンパ節転移により、頸部の圧迫感によって得手体位をとるのではないかと考え、項目に挙げたが、ターミナルのため詳しい検査をしていないこともあり、正確なデータの収集ができなかった。

今回の研究で、褥瘡と得手体位の間には関連がある、という結果を得た。今後は得手体位の関連因子をスタッフ全員で把握し、得手体位を早期に発見することで褥瘡予防に生かしていきたい。

## VI. 結論

1. 自覚的疼痛があることと得手体位の間には関連がある。
2. 麻薬による疼痛コントロールが不良で自覚的な痛みの訴えがあることと得手体位の間には関連がある。
3. 得手体位があることと褥瘡があることの間には関連がある。

#### 参考文献

- 1) 山田祥子 他：得手体位をとる頭頸部疾患患者の褥瘡予防，第35回 看護研究発表論文集録，金沢大学医学部附属病院看護部，p28～30，2003
- 2) 谷口治枝 他：日本褥瘡学会誌，日本褥瘡学会機関誌，vol. 5, No. 2, p383, 2003
- 3) 真田弘美 他：褥瘡対策のすべてがわかる本，別冊「エキスパートナーズ」，(株)照林社，2002
- 4) エビデンスに基づく褥瘡対策ケーススタディ，月刊ナーシング増刊号，vol. 23 No. 5
- 5) 著者代表 方波見重兵衛：系統看護学講座 基礎4 統計学，(株)医学書院